

## TAT 検査（標準比較法）の教材開発

## TAT 検査の実施法（実習）マニュアル

## 1 組分けと役割分担及び検査準備

① 二人一組で検査者と被検者の役割を交代しながら検査を行う。

なお、ペアは、それぞれの教室の中で組むこと。当日の学生数が奇数で相手が見つからない場合は、教員またはTAに申し出ること。

② 検査者と被検者は机をはさんで正面（対面法）、または直角（90度法）に座る。

③ 他の組の記録の邪魔にならないよう適度な距離をとる。

④ TAT 図版（ハーバード版）、記録用紙（レポート用紙またはノート）、ストップ・ウォッチ又は時計、筆記用具を準備しておく。スマホやICレコーダーも使用可。なお、TAT 図版は二人に一組でよい。

⑤ 実施前に、以下のwebサイトにある実施法に関する動画を見ておくこと。

<http://web.hyogo-u.ac.jp/yuma/>

## 2 実施手続き

① 検査者が30枚の図版の中から以下に挙げる○枚のTAT 図版を準備する。図版ナンバーの若い順から提示しやすいように伏せて重ねて机の上に置いておく（以降、図版1を#1などと表記する）。つまり伏せた一番上が#1、その下が#2という順序である。使用するのは、以下の○枚の図版である。他の図版は片づけておく。

使用する TAT 図版:#○, #○, #○, #○, #○

② 検査者は被検査者に以下の教示をする（坪内（1984）及び安香（1990）を参考にした）。

「これは物語を作るテストです。これから、あなたにいろいろの人や景色の描かれた絵を見せます。この絵を見てなるべく面白い話を作って、私に話してください。この絵の中の人は、今、どんな気持ちで何を感じ、どうしているのか、この絵の前にどんなことがあって、この絵の後にはどうなってゆくのか、お話の筋をつけて話してください。心に浮かんだとおりのあなたの考え方で話してください。」

「絵は全部で○枚あります。1枚ずつあなたに渡してゆきますから、1枚に1つずつお話を話してください。お話が終わったら絵を机に伏せてください。」

- 教示のポイントは「絵をみて、その絵から思い浮かぶ物語を作り、話すこと」である。このことが相手に伝われば良い。したがって、一言一句上記と同じ教示をしなければならないということではない。

ただし、講義では、皆さんが初学者であることを考慮して、上記の通りに忠実に言ってほしい。

- 限られた枚数の図版を使うのは、時間的制約からで

ある。著者は、臨床場面では、検査目的に応じて13枚前後の図版を選択して使用することが多い。20枚を施行すべきとする研究者もいる。また、ハーバード版のカードには、B（少年用）、G（少女用）、M（成人男子用）、F（成人女子用）、数字だけ（共通）の区別があるが、あまり区別にこだわる必要はない。

③ 話し始めるまでの時間と、話し終わるまでの時間をストップ・ウォッチで計測しつつ、筆記によって被検者の言葉をそのまま書き写す。書き写したデータはそのまま被検者に渡し、被検者自身が清書する。筆記記録の際、できるだけ正確に筆記すること。

④ まず図版ナンバーを記入する。記録に際しては、語り手の言葉をそのまま書き写す。その時の言いごもり、笑い、などもすべて記録しておく。後で分かればいいので、笑いをLといった記号で表現してもいい。記号等については、各自使いやすいものを工夫していい。言葉のない黙っている間（休止）も、だいたい等間隔で点（……）（・一つに約1秒）を打つ。……によって反応のどこで休止がどのくらいの長さであったかを、視覚的にとらえることができる。（ ）は検査者の言葉である。記録には検査者自身の言葉等も含まれる。筆記が間に合わないような場合は、被検者にゆっくり話してほしいと頼んでよい。以下に記録例を示す（坪内（1984）に示された方法である）。

#1 ……………  
……………うーん……………難しいな……………  
……<ためいき>……………<笑い>…………… (29")  
これバイオリンですね？……（自分の思ったとおりに話していただいて構いません。）…この少年は…  
……………後略…………… (2'50")

⑤ ○枚の図版がすべて終了した後、○枚の図版を被検者に手渡し、好きな図版、嫌いな図版に分けてもらい、さらに、その中で最も好きなカードと嫌いなカードを選ばせ、その理由を記録してテストを終了する。

⑥ 終了後は、教員またはTAにプロトコルを見せチェックを受けること。

## 3 結果の整理

① 検査者から受け取った筆記記録を誤字・脱字・間違い等を修正して清書する。ただし、誤字・脱字・間違い等の修正のみで新たに加筆、修正してはいけない。

- 略字や記号を使った場合は、他の人が読んで分かるように修正する。
- 必ず各物語の最初に図版ナンバーを記載する。

② 別紙2の「TAT 分析・解釈マニュアル」を参考にして結果をまとめる。

分析・解釈の説明の動画は以下の web サイトにある。  
<http://web.hyogo-u.ac.jp/yuma/>

報告書のまとめかたとしては、「臨床事例から学ぶ TAT 解釈の実際」(安香・藤田編)(1977)の第2部の事例が参考になる。具体的には、以下のとおりである。

- 1 各図版ごとに、物語を書く。
- 2 TAT 分析・解釈マニュアル等を参考にして、プロトコルの特徴を書く。
- 3 特徴から考えられる被検者の特徴を書く(可能であれば、一つの特徴に3つ以上の解釈を記載する)。
- 4 図版単体のまとめを書く。
- 5 すべての図版について書いたら、総合所見を書く。

#### 参考文献

「臨床事例から学ぶ TAT 解釈の実際」(安香宏・藤田宗和編)(1997). 新曜社  
ISBN-13:978-4788506015